平成３０年３月２５日発行　第11号

魚沼市 まちづくり委員会だより

平成29年度 魚沼市まちづくり市民会議 開催

平成29年11月25日（土）小出ボランティアセンターにて開催いたしました。
魚沼花じまんコンテスト表彰式、木育ミニ講座に続き、パネルディスカッションでは「木育から考えるまちづくり」について地域の方々や行政職員からのご意見をお聞きしました。

＊パネルディスカッション

テーマ　**「木育から考えるまちづくり」**

※木育（もくいく）とは、全ての人々が木とふれあい、木に学び、木と生きる取り組み

パネラー　大平　実（ダイカネ代表）　品田　美幸（主婦、２児の母）
富永　勝巳（魚沼市農林課農林室木材活用推進係長）　米山　幸子（魚沼市まちづくり委員会副会長）

コーディネーター　川村　健一（広島経済大学教授　まちづくり委員会アドバイザー）　（敬称略）

写真左から川村さん、大平さん、品田さん、富永さん、米山さん

パネラーの皆さまから、魚沼市の森林の現状や木との関わり、これからの可能性等をお聞きしました。
まず知る、今後への希望を持つ、実行し進んでいく事が重要であり、大切であるということでした。
会場では、地域産業振興部会で進行中の魚沼の食材にこだわった「うおぬまPizza」の試食もあり、好評でした。

木育の大切さ

近年我が国では（魚沼市でも）、利便性や経済効率の追求等による生活環境と自然環境の変化によって、人と人、人と自然、ものと自然とのつながりが希薄となり、社会や自然に様々な『ほころび』が生じています。
私たちの身の回りには、１枚の紙から家具・おもちゃ・建築に至るまで木から生まれた製品が多々使われていますが、その素材となった木を、更にはその木が生きていた「森」を想像できる人は、木々に囲まれた地域の人でもどれだけいる事でしょう。また、木が私たちの使う資源の中で、唯一自然と人間の力で再生される循環資源であることに重きを置く人もどれだけいる事でしょう。
森林資源の保全と活用のバランスが取れた『木の文化』は、古来受け継がれてきた日本の文化です。近年危惧することは、教育も生活様式も東京に倣って（真似をして）先人が培ってきた木の文化を放置することです。
東京は、自然をある程度破壊し東京に合った近代化を進めてきました。魚沼市は東京とは真逆にあり、循環型社会が可能でありながらそれを築こうとしないように感じています。
人間が自然から離れる事により色々な病気や社会現象が生じています。「人と四季がかがやく魚沼市」だからこそ木育を真剣に考え、循環型社会の構築を必要としています。日々の生活の中で、子どもも大人も木々を身近に感じながら過ごしていくことは大切なことであり、その一歩ではないかと思います。　（会長　桑原郁夫）

教育文化部会

木育の推進

社会の変化に伴い、私たちの生活の中にはプラスチックやビニールで作られた作品が多くなっている。幼児のおもちゃも木製が少なくなっている。

平成18年に閣議で「森林・林業基本計画」が決定され、市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、木材の良さやその利用の意義を学ぶ教育活動を「木育」と呼んでいる。

「木育とは木を植えて育てる事なんですか？」と聞かれた。「食育」は以前から耳にしているが、「木育」は知られていない。魚沼市では「ブックスタート」を実施しているが、赤ちゃんが誕生したらお祝いに「木で作ったおもちゃをプレゼントしたら…」の声もあり、まちづくり委員会の課題となっていた人口減少対策のひとつとしてまとめ「木育の推進」を市に提言している。

8月からは生活自然環境部会と合同で部会を開き、9月に東京おもちゃ美術館に行き、10月は同館副館長馬場清さんをお招きし「ウッドスタートで地域を元気に」をテーマに事前研修と講演会を開き学習した。11月のまちづくり市民会議は市民4人をパネラーに「木育から考えるまちづくり」のパネルディスカッションで更に理解を深めた。

魚沼の森林面積は広い。豊富にある資源を活用し、特色ある魚沼市を目指し少子化問題の解決に向け、協働の精神で活動を進めている。

木育講演会へ参加しての感想

昨年9月23日、東京おもちゃ美術館主催の木育講演会に７名で参加してきました。
地域の中でコミュニケーションをとることが実は地域の活性化につながるのだというお話でした。
毎日の生活の中での何気ない行動、隣人との付き合い、自然の物とのふれあい、大人も子どもも乳児も、知らず知らずに優しい気持ちで暮らして・・・。
日帰りで短時間の講演でしたが参加者全員が木育の大切さ、必要性を再認識し満ち足りた気持ちで帰ってきました。

副会長　米山幸子

健康福祉部会

健康寿命の延伸に取り組みます

「いつまでも元気で地域社会に関わりを持ちながら生活したい」をスローガンに掲げて活動をしています。

また、既存の諸団体と連帯して、行政と協働しながら活動を進めています。

平成29年度は、4月、魚沼市医療公社の庭山昌明先生を招いて、小出病院のあり方や市民が病院を応援する方法などについて講演をいただき、意見交換会をしました。

これからも、楽語い講座・楽想講座に参加して、地域医療魚沼学校活動を学びます。

6月は、「死」がタブー視される中、自宅で看取りを希望する家族も多くなり、終末期の在宅医療や在宅介護について、いろんな考え方を学ぶため、フリーアナウンサー長谷川ひろ子さんが自主制作したドキュメンタリー映画「いきたひ～大切な人を家族で看取る～」の上映と講演をセットにしたイベントを行いました。102名の入場者があり、市民の関心の高さが示されました。

▲大切な人を家族で看取る「いきたひ」上映会と講演会

市が行っている「うおぬま元気ポイント事業」は、楽しく参加でき市民の健康改善に役立ち、健康寿命の延伸につながります。元気ポイント対象事業が、コミュニティ協議会･自治会・老人クラブ等の諸団体に広がり、ポイント事業が地域の活性化につながるよう、市と協働して進めます。

政策部会準備会

魚沼市まちづくり委員会は発足から10年が経過した中で、当初、全員参加型で、その時々のテーマ設定で総会や市民会議を開き、勉強会のような形で運営していました。その後、活動の継続性や実践行動することの重要性を考え、専門的な4部会に分かれて活動してきましたが、年々部会員は減少し、参加者も固定化してしまいました。

そうした中でも、魚沼市総合計画の前期計画の見直し作業や、第二次総合計画の住民意見取りまとめのファシリテーターなどを務めましたが、まちづくり委員会として、まちの将来像に対する総合的かつ具体的な政策提案が出来ない状態が続いています。

そこで昨年の総会時において、外部の目線や若者の考え、あるいは国や県そして市の職員からも参加いただき

生活自然環境部会

第4回 魚沼花じまんコンテスト

金賞は堀之内根小屋の花畑をつくった

「城下地区自然を守る会」

永林寺裏の遊歩道の整備、植樹、育樹など行っている30代～80代の総勢57人の皆様です。

代表　渡部知二さん

担当　星野武男さんにインタビュー!!

▼おめでとうございます。授賞の感想をお聞かせください。

とてもうれしいです。会員の皆さんが頑張ったかいがありました。しかも初めての参加で金賞、喜びのかぎりです。

▼なぜあの広い場所に花畑を作ったのですか?

石川雲蝶で有名な永林寺近くの道沿いに、使わない畑があり雑草が目立っていたので花畑に活用しました。

▼たくさんの花苗はどう仕入れますか?

市の花いっぱいで貰うのもありますが、堀之内の関園芸様、㈱なみかた様等地元企業の協賛をいただき準備しました。

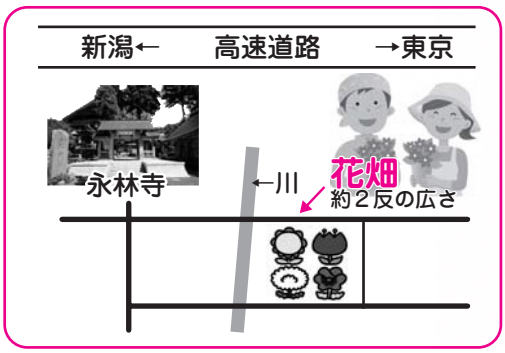
ポーチュラカをメインに、マリーゴールド、コスモス、そば等、約2千本植えました。始めての試みだったので、育った時の色のバランスや大きさを考えるのに悩みました。

▼草とりはどうしましたか?

広いので、半月に1回ほどトラクターで耕して除草しました。

▼はじめての花畑の感想は?

会員のボランティア作業によりポーチュラカが大きく育ち、色とりどりの広大な見ごたえのある美しい花畑になりました。今、菜の花を植えているので春には咲く予定です。



ありがとうございました。ボランティアの美化活動を尊敬します。永林寺のすぐ近くなので皆さんもぜひ見に行って下さい。

授賞者のみなさま

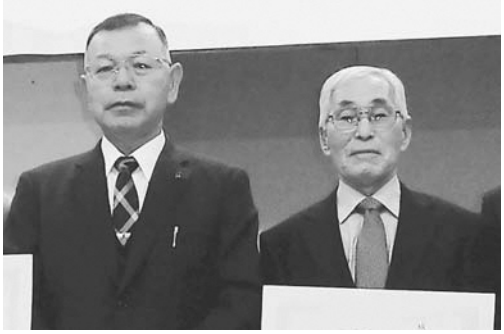
金賞　城下地区自然を守る会

銀賞　湯之谷芋川集落・郡山由紀子

銅賞　佐梨地区コミュニティ協議会・小出北部コミュニティ協議会
佐藤春代・酒井礼子　（敬称略）

参加者のみなさま

小出小学校青空みまもり隊・並柳区・入広瀬中学校・小出小学校・渋川老人クラブ・堀之内中学校・諏訪町町内会・伊米ヶ崎公民館・山田シルバー倶楽部・上条コミュニティ協議会・須原コミュニティ協議会・小出中学校環境整備・大平由紀夫・浅井一正・井口正雄・荒川時子・上村輝夫・尾澤新吾・星野邦子・浅井典子　（敬称略）



▲金賞受賞者　城下地区自然を守る会のお二人

勉強会を重ねながら「まちづくり」を考えて行く、「政策部会」を新たに設けることとし、その前段として準備会を立ち上げることとなりました。これまでに東川副市長、皆川県議会議員、魚沼地域振興局地域整備部の吉田副部長をお招きし、講演と意見交換などの勉強会を重ねて来ました。発足に当たり、魚沼青年会議所や商工会青年部、そして地域で活動している団体にも声がけし輪を広げているところです。
市民の皆様も新たに発足する政策部会にご期待下さい。ご意見もお待ちしています。

東川副市長をお招きした準備会風景

地域産業振興部会

市民総出の“うおぬまPizza”開発の協働作業開始！

市民会議で試作品振る舞う

“うおぬまPizza”の試作品を11月25日のまちづくり委員会市民会議の席で試食して頂きました。
試食後のアンケート結果、83%の方から「大変おいしかった。レシピが欲しい」と言われました。
また、2月3日国際雪合戦前夜祭で、ゆのたに茶々の会さんの協力で“うおぬまPizza”を作って頂き参加者に振る舞いました。「コシヒカリのピザは初めての食感、美味しく頂きました」の声。
これからは多くの市民のお力を結集し、市民食に成り得る美味しい“うおぬまPizza”が生まれるまで挑戦を続けます。
家庭で出来る！炊き上げたコシヒカリを生地にフライパンで焼き上げる“うおぬまPizza”
これからは「食まちうおぬま」の皆さんや各地「地域コミュニティ」の皆さん方、多くの団体とのコラボで、“うおぬまPizza”活動で魚沼市活性化の布石にと頑張ります。

いつの日か魚沼市に「うおぬまPizzaの日」誕生に向けて邁進

★ 四季が織りなす食材の宝庫魚沼市（コシヒカリの生地ができたら、好みのトッピング）
★ 「うおぬまPizzaの日」誕生の知名度、話題性と美味しさで全国発信
★ うおぬまPizza㈱　市民の出資で市民経営の会社創設が目標
★ 市民が一枚岩で地域を活性化（お互いを思いやり　力を貸し合い　支え合う）
★ 魚沼スピリットの醸成と強い絆を構築

自分のこと、地域のこと、魚沼市のこと、一緒に考える仲間を募集しています。

まちづくり委員会役員		各部会開催日程　※どなたでも参加できます。
会　長	桑原　郁夫	まちづくり委員会ホームページで開催日程及び活動報告もご覧いただけます。
副　会　長	米山　幸子・小林　進	
生活自然環境部会長	森山　右文	第３火曜日　広神コミュニティセンター
健康福祉部会長	石井　健友	第４火曜日　小出公民館
地域産業振興部長	清水　義次	第３水曜日　小出郷福祉センター
教育文化部会長	髙野　俊治	第４月曜日　小出公民館

編集後記

何か歯がゆい。自然・味覚・人情満載の魚沼市。なのに、何故か観光客・移住者が増えない？！
表現が下手とはよく聞く。例えば、魚沼市への移住者には懐疑的過ぎではないか？と聞いたことがある。「こんな山奥に、こんな豪雪地によく来たのぉ、もの好きだのぉ、大変じゃないか？」と最初何人もの人から言われたと。
来てくれて嬉しい、でも本当に移住してくれるのかという確認がしたいのかなと思う。でもそれなら、言葉が足りなすぎる。
「ありがとのー、春は一気に緑が芽吹いてきれいだから」「静かで夜は星空がきれい」とか。もともと良さがあって住みに来たのに、マイナス面だけを言われ続けると、人間誰でも考えてしまう。もっと明るく肯定的に話そうよ。
移住希望者やお試しの人たちに厳しさや覚悟だけ突き付けていくのは、門戸を狭めているだけのような気がする。短期でも住めば都、良さをどんどん発見して移住につながるかも。何らかの理由で移住につながらなくてもいいのでは・・。
魚沼市いいところ沢山あって、魚沼人交わればいい人なのだから、その機会を多くしていこう。

平成30年3月25日　第11号　■発行：魚沼市まちづくり委員会　■編集：まちづくり委員会だより編集委員
■連絡先：魚沼市まちづくり室（魚沼市役所）Tel 025-792-9752　E-mail:chiiki@city.uonuma.niigata.jp
■まちづくり委員会ホームページ：http://www.machidukuri-uonuma.com